



社会福祉
法人 豊中市社会福祉協議会

1997年(平成9年) 7月25日

第26号

発行

社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒560 豊中市中桜塚2-28-7 ☎(848)1000

ボランティアセンターだより



高齢者やお世話する家族の「杖」になれたらという思いがこめられた介護支援グループです。

痴呆性老人家族交流会、桜塚校区ミニディ「小さな栗の木会」のご老人の相手をしています。個別支援も行なっています。大阪府下でも数少ない在宅支援活動です。

身体の弱くなられたご老人、痴呆のご老人の話し相手、見守り、食事介助、散歩等です。「楽しかったおおきに」というご老人の声、



ステッキ

市社協登録ボランティアグループ

いろいろな杖が必要……

「ゆっくり買い物ができた」「痛かった腰の治療に行ってきた」という家族の声に今日も活動を続けています。グループ全体で支えあって活動しています。あなたも一本の「杖」になって見ませんか。



(K. S)



いま、福祉の町づくりは！ —地域の福祉を豊かにする—

声

地域ではさまざまな福祉活動が行なわれています。一人暮らしの高齢者に同じ健康な高齢者が訪問し、話し相手になる活動が行なわれていたり、あるいは主婦を中心にして給食活動、また子供会活動などです。生活をするうえで何か困ったとき地域の人々がお手伝いするというような地域福祉活動は、本格的な高齢社会の中で各地で活発に取り組まれています。

す。ボランティア元年といわれた、かの阪神大震災から丸2年が経ち住民の福祉理念はかなり向上しその成果は徐々にあがっているかに見られますが、まだまだ地域によっては格差が多いと思います。最近提唱されている小地域福祉ネットワーク活動の拡充、充実を望むや切なるものがあります。

(ズームイン 河田 博)



あったかい心にふれて



ー私の出会ったボランティアー

今回はボランティアと関わった方々の声をご紹介します。

障害者福祉作業所ボランティア

週一回のボランティア・サービスを受けて3年経ちました。当初は慈善的に障害をもつ子の作業補助を担当してもらい、その後、ご専門の縫製作業を手掛けてもらっています。技能を修得させる過程では、園生との心のかよいあいの中で、援助から協働の姿勢をとられ、決して甘やかされないのに、しなやかな対応は、園生にうけています。

ボランティア精神の固持と障害者意識の排除はかなり難しいことと思いますが・・・。

(コスモス豊中作業所 濱 和吉)



園生さんとミシン掛けをするボランティアさん

双子の会での託児ボランティア

私達の「ソーセージクラブ」は、双子を持つお母さん達の育児サークルで、結成3年目を迎えました。そよかぜさんには保健所での3ヶ月ごとの集会で託児をお願いしています。

発足当初は、母子一緒の集会のみでしたが、なにせ母1人で2人の子どもですから、追いかけて回している間にもう解散時間…。そこで、保健婦さんのアドバイスもあり、そよかぜさんにお手伝いをお願いすることになりました。

年齢は0～3歳位までの双子達。母親の参加が20名でも子どもの数は40名の大世帯です。大変なはずですが、集会后、迎えに行くといつも「いい子でしたよ。」とニコニコしておっしゃって下さり、ほっとして感謝の気持ちで一杯になります。この託児付集会は、日頃外出もままならないお母さん達に、双子と1時間半離れ双子ならではの悩みや情報をゆっくり話し、リフレッシュできる貴重な機会として好評を得ています。今後もそよかぜさんのご支援に感謝しつつ、集会を続けていきたいと思っています。これからもよろしくをお願いします。

(ソーセージクラブ 伊藤博子)

保健所と保健センターの業務が変わりました！

豊中保健所	市立保健センター
☆低体重児の相談	☆健康診査（妊婦、4か月児、1歳6か月児、3歳6か月児、その他母子に関する健診）
☆障害をもつ子どもの相談	☆家庭訪問や相談（妊産婦、新生児、乳幼児など）
☆アトピー相談	☆妊婦（両親）教室や離乳食講習会
☆難病についての相談	☆歯科疾患予防
☆こころの相談	☆40歳以上の寝たきりもしくはそれに準ずる方の訪問指導
☆高齢者についての相談	☆機能訓練教室
☆結核の相談	☆成人病の予防教室・健康相談
☆健康についての相談・健康診断	

問い合わせ先

大阪府豊中保健所

豊中市立保健センター

豊中市桜塚4-11-1

豊中市島江町1-3-14-101

☎849-1721

☎332-8558

在宅での話し相手・外出介助ボランティア

今日は火曜日ボランティアさんが来て下さいます。朝10時から外を歩き、いつものコースを回り、帰りにスーパーに入り目の保養をします。2、3品買って帰る途中その道々に草がいつせいに芽を吹き、各家の軒先には色とりどりの花が咲き乱れています。鳥の声を聞き、人とすれ違う度、「ああ、生きているんだなあ」と感じます。約2時間かかって歩き、疲れますが体がすっきりします。別れ際にお礼を言おうとしますとボランティアさんが先に「ではまた火曜日に。どうもありがとうございました。」とおっしゃり、これこそボランティアの神髄と感

謝するやらびっくりするやらでした。

その他にも夏物の着物を社協のボランティアグループの「小さな手」に作って頂きました。

世の中には余計なかかわりを持ちたくないとか面倒臭いとか思う人が多い時節にわが事の様に協力して下さる人々に本当に感謝しています。

皆さんの元気な声と明るい笑顔を見るとこちらまで元気になります。本当に幸せな充実した日々を送らせて貰っています。

気に入らぬ風もあろうに柳かな。

(砂古 準荘)



《ボランティアはいま》

私達ははじめてボランティアセンターに登録にいったのは銭太鼓という芸事での参加申込みでした。それからセンターより毎月送られて来るボランティアの内容を見て何かお手伝いをといつも心がけていたのですが、これといって自信の持てるもの、勇気もなくただ案内状に目を通すだけでした。

そんな時、センターから、仲間の二人で、父子家庭の子どもがおおぞら園へ通園するための送迎ボランティアの依頼がありました。二人で相談をしました。たまたま二人とも自営業のため仕事を手伝っています。仕事の忙しい時、用事の出来た時、決まった日時にいけるのだろうかとか色々な心配事や不安がいっぱいありました。けれど、いつまでもこんな事をいっていたのでは多分定期的なボランティアは無理だろう…。この機会をのぼしたらいつ出来るかわからない？まあ、二人ならなんとかかなるかも…とおおげさですが一大決心をしました。

週二回だけの送迎ですがはじめて家まで迎えにいったとき玄関で「おはよう」と大きな声をかけると二階から「おはよう」と元気な声が帰ってきた時には、二人顔を見合わせてニヤッと無言で

「良かった」と…。何分、他人の留守宅に上がるのは、二人ともはじめてですので勝手がわからずドキドキです。初日からハプニングがありましたが、二人での活動ですからなんとか切り抜けています。二、三回までは、これもあれもしてあげたいと気になることばかりで、どこまで踏み込んでいいのか、迷惑にならないかと変な気づかいと、時間に遅れては、との緊張でつかれました。

今では少し慣れ、家からバス停までの数分間の道程(どうてい)、彼の話を聞いたり、まわりの植木や草花に目をやり、観察もしながら楽しんでいます。ご近所の方へのあいさつ、そして同じバス停でのお母さん達との会話、今までの環境と違った人達との新しい出会いに喜んでいきます。お礼の電話をいただいたり、喜んでいただくとのお話を聞く度に、本当に良かったと思います。

家族の者も忙しい時間帯の時でも快く送り出してくれます。一人ではまだまだ不安ですので二人仲良く二人三脚で続けていきたいと願っています。難しい面も多く手さぐりの状態ですが彼の笑顔が何よりの喜びと励みです。

(個人ボランティア 山田 時子
楠元 照美)

平成8年度

ボランティアセンター事業報告

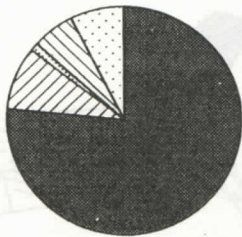
増える子育て支援、校区と連携して

市社協ボランティアセンターでは、ボランティアの登録・派遣制度があります。センターには、地域からさまざまなボランティア派遣要請があり、それらの課題に登録ボランティアと個人ボランティアが活動しています。

平成8年度は、267件に1803回、のべ3848人のボランティアが活動いただきました。

前年度より継続派遣件数

■在宅 ■施設・病院 ■行政 ■当事者団体 ■その他



合計=297

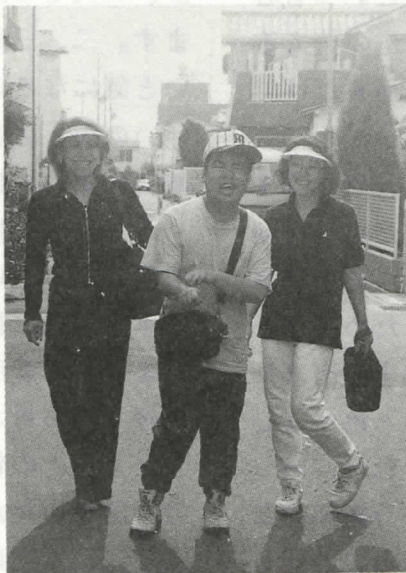
	件数	%
在宅	227	76.4
施設・病院	27	9.1
行政	3	1.0
当事者団体	17	5.7
その他	23	7.8

前年度より継続派遣件数30件を含む

主な活動



昨年からはまった刀根山病院話し相手



障害者の通所施設の送迎バスまでの送迎



急上昇の子育て支援



仮設住宅からの引越しボランティア



高齢者の外出介助

登録状況

登録人数 522名

男性102名

女性420名



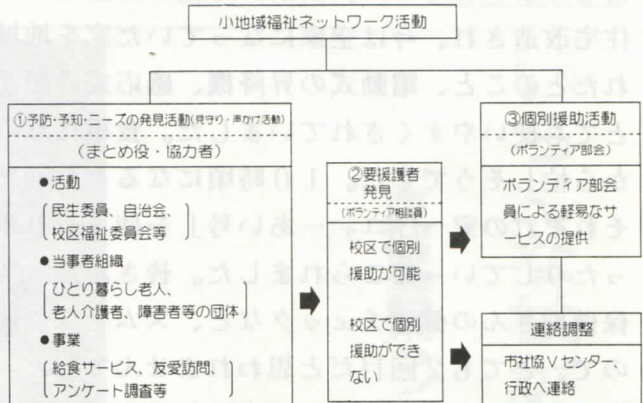
ひろがる小地域福祉ネットワーク

校区で進む、見守り・個別支援の輪

個別支援は、58件 派遣回数 749回 のべ派遣人数 1,015名
見守り件数 465件 見守り回数 224回 のべボランティア人数 1,795名

平成8年度の取り組み校区

桜塚、南桜塚、原田、豊島、中豊島
刀根山、西丘、北丘、豊島北、泉丘
東豊台、少路・北緑丘、北条、庄内南



個別支援とは

地域で、お困りの高齢者・障害者等からの援助希望に応えます



見守りとは

定期的に訪問が必要な世帯を選定して、校区ボランティアが見守ります

例えば 高齢者二人世帯、昼間一人の虚弱老人、要介護老人世帯

ニーズ把握方法

地域のニーズの掘り起こしを行い、予防に努めています。

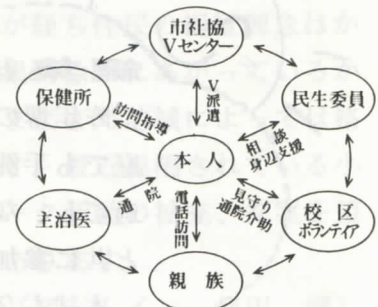
おしゃべりサロン、ニーズ調査、校区活動、民生委員活動・老人会・自治会等を通じて

見守りから孤独死を防ぐ



桜塚校区の取り組み

市社協ボランティアセンターから、見守りの依頼を3月に受けて以来、民生委員と協力して、定期的な見守りは校区ボランティア、緊急対応や親戚との連絡は民生委員と役割を分担し、67歳の虚弱な女性の見守りが始まりました。保健所や病院とも連携が始まった6月初旬、いつものように見守り訪問時に本人が倒れているところを発見。死後半日が経過していました。人生の終末に多くのボランティアに囲まれたことが何よりのなぐさめでした。また、死後の発見も早く、放置されることなく救急や親戚にも即連絡できましたが、この教訓からも小地域福祉ネットワークは本当に重要だと痛感しています



ボランティアレポーター訪問記

原田校区デイハウス村井「遊友」に見学に行かせて頂きました。これは原田校区福祉委員会が地域ぐるみで実施する手づくりのデイハウスです。良く晴れてとても気持ちのよい日でした。以前お母様の介護をされたときに住宅改造され、今は空家になっていた家を地域に提供されたとのこと、電動式の昇降機、感应式の照明器具などとても使いやすくされていました。食事作りの方は早くから忙しそうでした。10時頃になるとお迎えの方達がそれぞれの家へ「ユッーあい号」を使ったり車イスを使ったりして行ってこられました。皆さん揃っての雑談、保健婦さんの健康チェックなど、スムーズに流れて行くので、とても2回目だと思われませんでした。お年寄りの方もいつも出合っている人達なので安心なのでしょう。とても和やかで楽しそうでした。

(ステッキ 古川ふみ子)



原田校区デイハウス村井「遊友」



ボランティア保険のご案内

保険の種類	ボ ラ ン テ ィ ア 保 険			有償活動保険		子 供 保 険	移送サービス交通傷害保険	ボランティア行事保険
加 入 対 象	ボランティア活動に参加する方			府下・地域を対象として有償活動を行っている団体		地域で活動している子供を中心としたグループ	移送サービスを行っている団体	ボランティア保険に加 入できる人やそのグル ープが主催する行事
掛 金(円)	Aプラン	Bプラン	Cプラン	Aプラン	Bプラン	200円	420円より	宿泊なし 1人 30円 (50人以上) 宿泊あり 230円より
	300円	500円	2,000円	1,000円	1,500円			
保 険 期 間	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間 (途中加入の場合、毎月1日、10日、20日から発効)							行事期間中(行事の1 週間前までに申込み)

個人登録ボランティアの集い

5月26日(月)に第2回登録ボランティアの集いを開催しました。

自己紹介から始まって、登録ボランティアグループの活動ビデオをみたり、ボランティアスクール、ボランティア募集の紹介を行ないました。

皆さん初めて顔をあわせ、初めは緊張しておられましたが、話をしているうちに徐々に打ち解けて、一緒にボランティアスクールを受講する約束をして帰られる方もおられました。「なかなか活動するきっかけがない」「グループに入っていきなり活動するのは不安がある。」「グループに入ってなじんでいけるだろうか」等々個人ボランティアならではの悩みや意見の交換をする機会となりました。

今後また、登録ボランティアさん同士が集って、日頃の悩みや疑問に思っていること等を話し合う場を作って行きたいと思います。

編集後記

昨年堺の学校給食からさわがれた食中毒、これからの季節、各家庭でも手洗い、食品の管理、台所の衛生等に気をつけて、この夏を過ごし、なみはや国体のアマチュアスポーツのすがさがしさを選手と共に参加したいものです。

本誌も26号、皆様のご意見、感想をお待ちしています。

(N. H)